令和元年　11 月 28 日

平成３１年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立　姿川第二 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成31年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　115　人

②　算数　　115　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

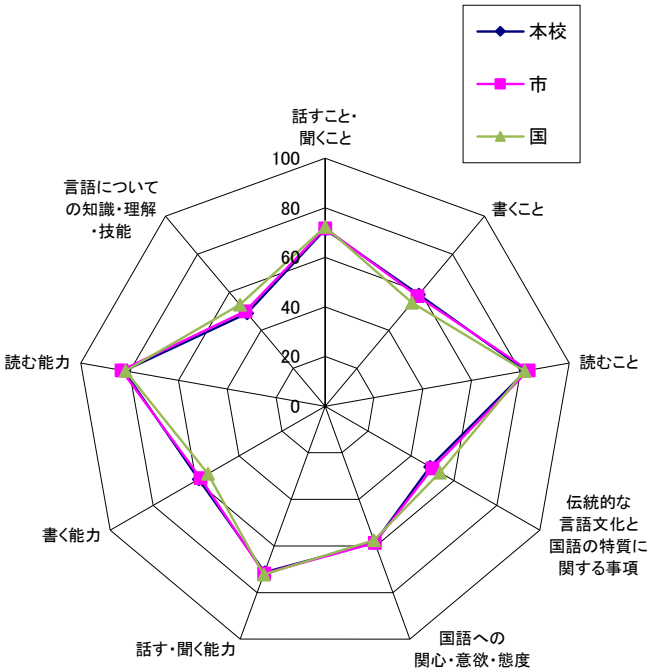
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.3	71.8	72.3
	書くこと	58.8	58.0	54.5
	読むこと	82.3	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	48.9	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	58.6	58.7	57.6
	話す・聞く能力	71.3	71.8	72.3
	書く能力	58.8	58.0	54.5
	読む能力	82.3	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	48.9	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

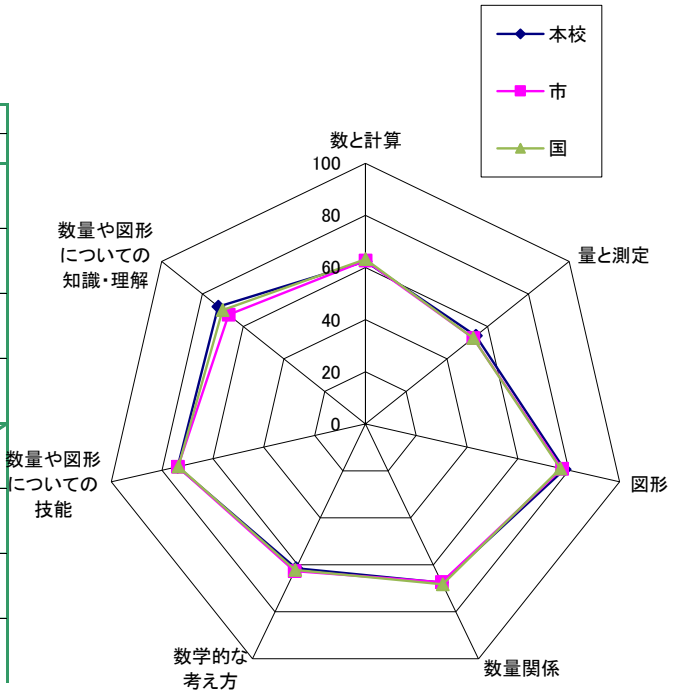
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は全国，市とほぼ同じである。 ○話し手の意図を捉えながら聞き，話の展開に沿って，自分の理解を確認するための質問を考える問いは，よくできている。 ●目的に応じて，質問を工夫する問いの正答率は，全国や県と比べ約3ポイント低く，無回答も多かった。 ●話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・国語の時間だけでなく，特別活動や他教科の学習でも話し手の意図を捉えながら意識して聞くよう，指導する。 ・理解を深めるためにわからなかったことを質問したり，正しく理解できているか確認するために質問したりするときの言い方などを具体的な場面を想定しながら指導し，目的に応じ工夫して質問ができるようにさせる。 ・国語の学習以外でも，明確な意図をもってインタビューする活動を取り入れ，心に残ったことや相手が伝えたかったことを自分の言葉でまとめる経験を積ませる。
書くこと	平均正答率は，全国，市の平均を上回っている。 ○図表やグラフなどを用いた目的や，情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問いは，よくできている。 ●目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く問いの正答率は，全国を上回っているものの，30.4%と低く，与えられた条件を満たし，文章化することに課題が見られる。	・条件に合うように文章から必要な言葉や文を取り上げて書けるように，読む活動を充実させ，読解力を付ける。 ・文字数や使用する語句などを指定し，形式に合わせて書く活動を取り入れ，継続指導していく。 ・学習のまとめや振り返りの際に，大事な言葉を指定してまとめさせたり，調べたことや読み取ったことを理由や事例にして自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。
読むこと	平均正答率は全国，市とほぼ同じである。 ○「食べ物の保存について」と題したノートに関する問題で，目的に応じて文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にしながら読むことはよくできている。特に（2）は，資料を活用し，文字数や書く内容など条件に合わせてまとめて書く設問であったが，正答率は77.4%と，全国を上回った。 ○目的に応じて，必要な情報の書かれているところを選ぶ問題にも，89.6%と高い正答率を示した。	・複雑な問題に関して，無回答者が6%近いものもあり，あきらめてしまっていることが考えられる。区切って読ませたり，段階的に考えさせたりする授業を意図的に行い，実践につながるように継続して指導を行う。 ・様々な資料を活用した読み取りを，今後も授業の中で取り入れていく。自分で資料を作成する活動と関連させていくことで，表現力，読解力の向上に努める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は全国，市を下回っている。 ●「対象」や「関心」など同音異義語について，「対照」「対称」，「感心」といった誤答が多く見られた。特に，「関心」の正答率は27.0%と，県の平均より4.0ポイント，全国の平均より8.6ポイント低かった。 ●文と文のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書く問いは，県や全国と比べて3～6ポイント低かった。 ●ことわざ「習うより慣れよ」について，その使い方を選択肢から選ぶ問題では，意味が書かれているにもかかわらず，正答率は68.7%と，，県の平均と比べ，5.5ポイント低い。	・当該漢字や単語だけに焦点を当てるのではなく，その前後の文脈を把握して，漢字のもつ意味を考えながら文や文章の中で正しく漢字を使おうとする習慣を身に付けさせる。 ・漢字練習だけに留まらず，日頃から学習した漢字の意味を辞典で調べたり，その漢字を使った短文を作る練習を取り入れたりすることで，定着を図る。 ・接続語の働きを理解させるとともに，文章の中で適切に使えるよう，短文づくりなどで習熟させていく。 ・ことわざや慣用句などを校内に掲示し，目に触れるように工夫しているが，覚えた漢字やことわざを表現に生かせるような場面を設け，慣れ親しませる。

宇都宮市立姿川第二小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	62.4	62.7	63.2
	量と測定	54.2	52.9	52.9
	図形	78.3	77.3	76.7
	数量関係	67.6	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	61.4	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	73.9	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	72.2	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○除法の式を，かける数や割る数を選び，計算しやすい式にして計算することができている。特に，除法の式の意味理解は，県を12.9ポイント，全国を6.9ポイント上回った。 ●示された場面において，複数の数量から必要な数量を選び立式する問題では，全国平均を7.7ポイント，県平均を5.8ポイントと大きく下回っている。また，加法と乗法が混合した整数と小数の計算問題に課題が見られた。 ●減法の計算の仕方を基に除法の計算の仕方を指定された言葉を使って説明する問題の正答率は，県や全国とほぼ同じであったが，30.4%と低く，課題が見られた。	・授業において，図や表を用いて，考える活動をできるだけ取り入れる。 ・与えられた数の意味を確認したり式の意味を説明したりする活動や，いろいろな四則計算の問題文を作る活動を取り入れる。 ・自分で求めた答えや立式が問題文に適しているか，問題を解いた後に確認をする習慣をつけるよう指導していく。 ・既習事項の定着を図るため，意図的に5年生までの復習プリントを宿題にしたり，授業内容と既習事項を関連させた問題に取り組ませたりする。 ・計算に関して成り立つ性質を見出し，どの数でも当てはまることを算数用語を用いて表現する活動を取り入れる。
量と測定	平均正答率は，全国，市の平均を上回っている。 ○減法で示された面積の求め方を説明する問題では，県を9.3ポイント，全国を8.3ポイント上回った。 ●二つのグラフを関連付け，判断の根拠を言葉や数を用いて記述すること，どのようにして答えを求めたのか，理由を説明することに課題が見られる。	・文章問題では，問題文をよく読み，問題場面を図で表したり言葉を用い説明する場面を授業の中で取り入れる。 ・式や答えを先に提示しておき，必要な言葉を補い，説明する練習を授業の中に取り入れる。 ・日常生活の中の問題解決のために，多くの情報の中から必要な数量を見出し考える機会を設ける。
図形	平均正答率は，全国，市の平均を上回っている。 ○図形の性質や構成要素に着目し他の図形を構成する問題の平均正答率は，県，全国を5ポイント以上上回っているが，66.1%と今後さらに定着を図っていく必要がある。 ●長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ問題の平均正答率は，90%とよくできているが，県や全国をやや下回った。	・様々な図形を作図する活動や具体物を操作する活動を取り入れ，その図形の性質を見出し，基本的な理解を深められるようにする。 ・立体図形の学習において，具体物を用いて構成活動を行うなど，視覚的に捉えられるようにする。 ・基本的な内容の定着に向けた継続的な学習を実施するとともに，習熟度別学習を生かして，個に応じた指導の充実を図る。
数量関係	平均正答率は，全国，市の平均とほぼ同じだった。 ○棒グラフから，資料の特徴や傾向を読み取る問題の正答率は，96.5%と高く，全国・県の平均を約1ポイント上回っている。 ●目的に適した伴って変わる二つの数量を見出す問題では，全国平均を3.6ポイント下回っている。 ●単位量当たりの大きさを基に，求め方と考えを記述し，その結果から判断する問題では，国や県の平均をやや下回った。また，無回答率が6.1%と高く，課題が見られた。	・棒グラフの特徴を読み取る力は，しっかり定着している。算数科以外の学習の場でも，棒グラフだけでなく様々なグラフに触れる機会を設けるなどして，定着を図る指導を継続的に行っていく。 ・日常生活の場面を提示し，問題解決のためにどのような情報が必要かを問いかけることで，児童自身が場面の中から伴って変わる二つの数量を見出すことができるような学習を取り入れていく。さらに，この見出した数量や立式が適切であるか意見を交換する活動を取り入れた学習を充実させ，理解を深めていく。 ・単位量当たりの大きさを考えさせるために，図を用いて考えたり，必要な数量を選択したりする活動を取り入れる。無回答率の高さには，問題文を最後まで読み取ることをあきらめてしまっていることも考えられるので，粘り強く読み取る力も育てていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日，同じくらいの時刻に起きていますか」の設問に肯定的に答えた児童の割合は，県の平均より2.7ポイント，全国の平均より4.9ポイント高かった。起床時刻に対する意識は高いことが分かる。
○「自分には，よいところがあると思いますか」「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学校のきまりを守っていますか」の設問に，肯定的に答えた児童の割合は，県や国の平均よりも高い。規範意識や自己有用感が身に付いていると言える。特に「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問の肯定的回答は99.1％であり，本校の「ほめてのばす教育」の実践の成果であると考えられる。
○「先生は，授業やテストで間違えたところや，理解していないところについて，分かるまで教えてくれていると思う」児童の割合は95.7％で，県や全国の平均よりも高い。この割合をより高めることで，学力向上を図りたい。
○「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している」児童の割合は，県の平均より6.1ポイント，全国より9.9ポイントも高く，様々なことに意欲をもって取り組もうとする児童が多いといえる。今後も励ましながら児童の意欲的な態度を育てたい。
○「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定割合は99.2％，「人が困っているときは，進んで助けている」の肯定割合は97.4％と，県や国の平均よりも高い。今後も，いじめ防止の取り組みをしっかり行い，児童の意識を高め，いじめゼロを目指していく。
○「総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うか」の設問では，本校の肯定的回答の割合が全国に比べて17ポイント高く，学習の成果が表れている。
○「国語の勉強が好き」「国語の勉強は大切」「国語の授業の内容がよく分かる」と肯定的に答えた割合が，県や全国に比べて高い。また，国語の学習が将来役に立つと思っている児童の割合も多く，国語の学習の大切さについて考えている。今年度の学校課題である表現力，読解力を高めるための取り組みの成果と考えられる。
○「算数の勉強は大切だと思うか」という設問に対して，肯定的回答が100％で，県平均より4.9ポイント，全国より6.2ポイント上回っている。算数の学習の大切さを感じながら，学習に取り組んでいる。また，「算数の学習が将来役に立つと思うか」の設問の肯定的回答の割合が，全国や県の平均より高く，算数の勉強を大切と考えている児童が多い。新しい問題に出合った時も解いてみたいと答える児童の割合が高く，算数の授業に意欲的に取り組む児童が多い。
○算数の授業で，ノートに問題の解き方や考え方が分かるように書いている児童の割合は，全国平均よりも8.3ポイント高い。また，今回の問題について，最後まで全問を解答しようと努力した児童の割合が，84.6％と全国平均よりも3.9ポイント高い。問題に意欲的に取り組んだと考えられる。
●「毎日，同じくらいの時刻に寝ているか」の設問に肯定的に答えた児童の割合は，県の平均より6ポイント，国の平均より2.8ポイント低かった。放課後の時間の使い方について家庭に協力を呼びかけ，基本的生活習慣の一層の定着を図っていく必要がある。
●「学校の授業時間以外に，普段，１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか」の設問に，１時間以上勉強していると回答した割合が県や国より7ポイント以上低く，家庭学習にかける時間を見直していく必要がある。
●「新聞を読んでいますか」の設問に肯定的に答えた割合が，県や国より7ポイント以上低く，学校の教育活動の中や，家庭への働きかけなどで，新聞を読む機会を増やしていく必要がある。
●5年生までの，コンピューターなどのICTの使用に関しては，「週1回以上使っている」と回答した割合が県や全国では30％以上だが，本校では21.4％で，使用頻度は少ない結果だった。低・中学年でのICTの利用を図っていきたい。
●「算数の授業の内容はよく分かるか」について否定的回答が22.2％で，県平均より7.2ポイント，全国より5.7ポイント高くなっている。一人一人の授業の理解度を確認しながら，TTや個別指導を積極的に取り入れ，「分かる授業」を意識して実践していきたい。
●「算数の授業で，公式やきまりのわけを理解するようにしているか」の質問で，「理解していない」と答えた割合が，県平均の割合を上回っている。公式やきまりを意味づけて導き出し，意味を理解させるような授業展開を考えていく。
●「国語の解答時間が足りなかった」と回答している児童が29.1％で，全国平均よりも4.8ポイント高い。日頃から文章を読む機会を設け，読書を奨励し，「読む力」の精度を上げていきたい。

宇都宮市立姿川第二小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力・表現力の伸長	読む活動から感想を書いたり，自分の言葉でまとめたりする活動につなげる授業展開を意識して行っている。また，音読や視写を取り入れ，よい表現に触れさせる機会を設けている。	国語の「目的に応じて文章の内容を的確に読む」設問では，全国平均を上回っている。しかし，「自分の考えの理由を明確にし，まとめて書く」設問では，全国平均を上回ってはいるが正答率は30.4％と低く，課題が見られた。
家庭学習の習慣化	週末の家読に全学年で取り組んでいる。学年の始めに，家庭学習の進め方についての資料を配付，年2回家庭学習強化週間（1.2年生は1回）を設け一緒に振り返るなど，保護者にも協力をお願いしている。	「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の設問に肯定的に答えた児童の割合は73.6％で，全国平均よりも高い。しかし，平日に一時間以上勉強している児童の割合は58.9％で，県や全国の平均を下回っている。学校の図書室や地域の図書館を利用する割合は，全国平均を上回っている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において，漢字や言葉など，基礎的な技能にかかわる問題で，全国平均を下回る問題がいくつかあった。また，記述式の問題に対する無回答率が全国平均より高く，根拠を挙げながら説明することにも課題が見られた。	・自分の言葉で書く活動や示された言葉を使いながらまとめる場を取り入れる。 ・学習した漢字や言葉を実際の場で使えるようにする。	授業の中で，自分の言葉でまとめたり，感想や振り返りをまとまった文章で書いたりする場を意図的に設定する。大切な語句や例を挙げて書くことも意識させる。良いまとめ方や考えを全体で共有し，表現力の向上を図る。 漢字辞典や国語辞典を活用したり，多くの本，新聞記事などの文章に触れさせたりすることで，漢字や言葉の意味の理解を深め，定着を図る。